

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 久留米筑水 高等学校

63

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指すべき学校像)</p>	<p>「地域や社会で必要とされるスペシャリストの育成」 ～「Only One(唯一の学校)」から「Special One(特別の学校)へ」～ 「農業」「福祉」「調理」の分野における知識・技術の習得をはじめ、心豊かな職業人としての使命感や誇りを持つスペシャリストの育成に加え、目まぐるしい社会に対応し得る人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を確立し、基礎学力の向上を図ることで、将来を切り拓く力 ○社会における自己の役割を認識し、自他を尊重する態度 ○課題解決に向けて前向きに挑戦し、主体的に取り組む力(チャレンジ力) ○「農業」「福祉」「調理」の専門力、並びに地域を大切に、地域に貢献できる能力と態度
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着を図るため各専門分野の基礎から応用に向けた段階的学習カリキュラムの編成 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業時にグループワーク、討議、発表等の導入 ○生徒一人一人を大切に、個別最適な学びの実現に向けた少人数や習熟度別授業の導入とICT活用 ○自ら課題を発見し解決していく資質・能力の育成
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○協働と奉仕の精神に富み、人権を尊重する心豊かな人 ○社会の変化に対応できる柔軟な思考を持っている人 ○学習活動、学校行事、部活動、探究活動などに意欲的に取り組む人 ○「農業」「福祉」「調理」の各分野の知識・技術の習得や資格取得に対して意欲的に取り組む人 ○地域や社会に貢献し、人の役に立ちたいという気持ちを持つ公共心あふれる人

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>○成果 1 ICT機器やオンライン学習支援ツールを活用した個別最適な学びにより教育活動が充実した。 2 計画的な職員研修会の実施により特別な配慮を要する生徒への理解ときめ細かな生徒指導を実践できた。 3 農業クラブ鑑定競技の全国大会出場や、全国レベルの調理コンテスト受賞、介護福祉士国家資格の全員合格の達成など、各科の魅力ある教育課程による学習成果が表れつつある。 ○課題 1 社会的自立の基盤となる確かな学力の育成と実践力の向上 2 幅広い人材育成とキャリア教育の充実 3 他者理解と対人コミュニケーション能力の育成 4 ワンヘルス教育の視点による教育活動の工夫・改善(学校全体や学科及び教科・科目)、並びに「学びの多様化」に向けた改善</p>	<p>ICTを活用した学習方法の多様化により、基礎的な学力の定着を図る。そして、社会的自立の基盤となる確かな学力と自ら学ぶ力の育成を目指す。</p> <p>農業・福祉・調理の専門分野におけるスペシャリストの育成に加え、社会の状況を踏まえた幅広い人材を育成するため、キャリア教育の充実を図り、第一希望の進路実現を目指す。</p> <p>規範意識の高揚と対人コミュニケーション能力の育成を図るとともに、自律心と自分と異なる他者への理解と思いやりのある心豊かな人間性の育成を目指す。</p> <p>授業や学校行事において、個人及び社会生活における健康・安全に関するワンヘルスの視点を5つの学科それぞれの教育活動に盛り込むとともに、学びの多様化に対応した授業改善を図り、地域に求められる魅力ある学校づくりを目指す。</p>	<p>基礎学力の定着に向け、1時間の授業を大切に授業改善や充実に努め、生徒理解に基づいた観点別学習目標の設定と指導により、対話的で深い学びと学習評価の場を明確化した授業を行い、確かな学力の育成を図る。</p> <p>ICT機器やオンライン学習支援ツールを活用した多様な学びにより、主体的で、個に応じたきめ細かな指導を行うとともに、災害や感染症等で登校できない場合でも生徒の学びを止めない。</p> <p>各学科等での学びの特色を生かし、資格取得やコンテスト・各種競技等へ向けた指導を充実し、キャリアアップを図る。</p> <p>3年間の継続的・組織的な指導体制のもと、効果的な現場実習や外部人材の活用により生徒の進路意識を高揚させ技能を習得させる。</p> <p>各学科において、将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身に付けさせつつ、幅広い職種に対応できる勤労観と職業観を育成する。</p> <p>生徒の希望進路決定100%の実現に向け、企業及び大学等との連携をととして、生徒の興味・関心及び適正を重視した進路指導を行う。</p> <p>挨拶、時間厳守、礼儀作法、整理・整頓、頭髪・服装、スマートフォン等のマナーアップ指導を全職員で徹底する。</p> <p>全教科・領域、学校行事、ボランティア活動等において、対話的な活動を位置づけ、自尊感情の育成、自律心と相手を思いやるコミュニケーション力の育成を図り、いじめの撲滅と人権意識を高揚させる。</p> <p>担任、学年、学科相互や、外部機関との情報共有を図り、SC、SSWや保護者等との連携した教育相談体制のもと、中途退学者を減らす。</p> <p>ワンヘルスの視点を盛り込んだ教育活動をととして、5つの学科それぞれの魅力を高める授業改善に努める。</p> <p>学校全体が一体となるワンヘルス教育を盛り込んだ体験活動等をととして、生き生きと学ぶ生徒の姿を地域や中学校へ積極的に発信する。</p> <p>「学びの多様化」における改善点を促し、関係分野に連絡し、改善できる取組を実践する。</p>	<p>A</p>

自己評価						学校関係者評価		
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務課	教員の授業改善を図り、生徒の社会的自立の基盤となる確かな学力の育成と社会で柔軟に対応できる力の向上のための取組を実践する。	ICT機器を用いて、効率的・効果的な授業実践を図る。また、一人一台タブレットの活用で「個別最適化」の学習の実現を図る。	学校満足度アンケート結果「授業(普通教科)に積極的に参加できた」 96.7% 「実習に積極的に参加できた」 98.3% 「学校生活に満足しているか」 93.3%	A	A	多くの教科・科目で電子黒板やタブレット等を活用した授業を展開することができた。これを生徒の思考力や判断力、表現力の向上に結び付け、社会に対応できる力をどれだけ育成できるかが次年度の課題である。	A	実際の授業を見直し、大変感銘を受けた。職員による日頃の生徒への姿勢を肌で感じることができた。
		「主体的・対話的で深い学び」の実践によって、学習意欲の向上や思考力・判断力・表現力の向上、学習内容を定着させ、社会で柔軟に対応できる力を育成させる。		B				
	新教育課程に伴う観点別評価において、今までの実践や他校の取組状況を比較し、より良い教務規定を作る。		A					
	学力向上・授業改善のための学習環境の整備を図る。	情報処理室・視聴覚教室・電子黒板等、教育設備の整備と有効活用を図る。 教科担当者等において、生徒情報等を共有し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」意識した授業改善につなげる。 定期考査や観点別評価の実践におけるサポートを各学年において実践する。	授業アンケート・学校生活アンケート等の結果をもとに、担任による面談や教科担当者自身の授業改善	B	B			
広報情報課	地域を中心に、より多くの方に幅広く理解を得られるような広報活動の実施	魅力が伝わる学校ホームページ・学校案内パンフレット作成	【体験入学アンケート】185名回答 本校の魅力と感じた点 1位「教育内容(学科の学習内容等)」83.2% 2位「在校生の様子」72.3% 【体験入学参加人数】 R6(340名)⇒R7(462名)+122名	A	A	今年度は、各中学校・塾・第8学区進路相談事業の説明会に加え、他学区の進路相談事業にも参加し、幅広く広報活動ができた。結果、体験入学の参加人数が、昨年度より122名増えた。また、多くの方に教育内容や在校生の様子に好感を持ってもらうことができ、効果的な説明・体験学習を実施することができた。次年度は、今年度実施した説明会関係のアンケートで寄せられた疑問点をカバーできる説明内容に改良していく。	A	ホームページの更新、パンフレット等で学校の雰囲気や伝わり、明るいイメージを感じる。
		各種学校説明行事に関する戦略的な企画・運営		A				
		中学2年生を対象とした説明会(3学期)を企画・運営		B				
	生徒・教職員を対象としたIT関連知識・技術の習得推進	学校ホームページ・SNS等を活用した積極的な情報発信 授業におけるICT機器の積極的な活用 ICTに関する教育環境の整備	・学校公式Instagram文化祭関連記事のいいね411件 ・ICTについて、授業、学校行事関連製作物、各種アンケート等において、先生方をはじめ生徒も円滑に活用できた。	A	B			
生徒指導課	自己指導能力の育成及び自己表現力の育成	職員間の情報共有による問題行動の未然防止と早期発見	・問題行動件数(2学期末時点)10件(停学2件、生徒指導主事注意8件) ・規範意識育成学習に係る講演会等を計5回開催 ・文化祭来場者数1000人以上	B	A	校内での金銭の盗難事件が数件発生し、対応に苦慮した。スマホの使用に関する指導も多く、次年度への課題である。文化祭は生徒会を中心に各学科との連携が十分に図られ、準備から当日の運営まで生徒の主体的な活動が見られた。	A	文化祭では多くの来校者があり、地域の方にも楽しいイベントになっている。生徒指導においても適宜、指導をして健全育成に努めていきたい。
		文化祭に向けてのリーダー育成と、計画・運営・実施の協力体制の構築		A				
		生徒の社会的自立と、規範意識醸成のための適切な講演会の実施		A				
	安全安心な学校生活づくり	主体的な生徒会活動による各種行事の円滑な企画・運営 本校生が地域の行事等に積極的に参加・貢献する機会の設定 学校いじめ防止基本方針の共通理解による、いじめの未然防止・早期発見	・いじめに関するアンケートへの記述11件(うち、いじめの新規認知件数0件(2学期末時点)) ・生徒会主体の行事企画・運営	A	B			
保健課	生徒の健康増進と安全に対する意識の醸成、学校環境の整備と保全を心がけ美しい学校作りを目指す。	健康と安全に関する啓発活動の一環として、保健だよりの充実を図る。	健康診断を計画的に且つ円滑に実施し、生徒の健康状態を把握することができた。清掃用具の調査を行い、適切な用具や量の把握ができた。	A	A	毎月発行の保健だよりにおいて、ワンヘルスや食品ロスを意識したレシピを掲載し、生徒へ意識の醸成ができた。 清掃区域の見直しを図り、美化コンクールを円滑に進めることができた。	A	生徒の健康管理の啓発や環境美化に努めてあり、今後も継続してほしい。
		健康診断等を通して生徒の健康状態を把握し、個別指導・支援に繋げる。		A				
		生徒の衛生面、安全面の管理の徹底、美化委員会を中心に美化コンクールの実施、道具の整備にあたる。		A				
	教育相談・特別支援教育の充実を図る。	生徒指導課と連携して、学校生活アンケートや面談週間等から生徒の実態を把握する。それにより課題の早期対応に努める。 講演会や保健だよりの発信により、他者との関わりやストレス対処法についての教育を行う。 合理的配慮が必要な生徒に関しての研修会等を行い、職員間の共通理解を図り、支援策を検討する。	生徒指導課と連携した学校アンケートにより、生徒の生活に関する課題を把握できた。	A	B			
				A				

進路指導課	進路意識の向上	進路学習や進路ガイダンスを充実・発展させ、自分の能力や適性に気付かせる。	・進路希望調査、進路ガイダンス分科会アンケート実施→自分の進路を考える契機となった。	A	A	ワンヘルスの取組を全校でアウトプットすることで、自分の専門性だけでなく他学科の学びの価値を知ることができた。強みを生かした進路指導を強化したい。次年度は進路ガイダンスと学科主導でのキャリア教育を整備し、早期による進路意識の向上を図る。	A	ワンヘルスの取組を全校でアウトプットし、学びの幅を広げているのは素晴らしい。
		ワンヘルス教育を通してそれぞれの専門性の価値を知り、地域・社会・世界との繋がりが見出される。	・3年就職希望者は平均2〜3社の職場見学を経て応募先を決定した。12月末現在で就職内定率98.2%である。	A				
		実習・職場見学・オープンキャンパス等を経験し、主体的に進路について考えさせる。		A				
	進路保障のための学力向上	朝学・基礎学力テストを通し、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。	・classiによる課題提出率(1年7〜8割、2年3〜4割、3年1割)	B				
		小論文・プレゼンテーション指導を通し、論理的思考力や表現力を鍛える。	・3年生進路希望者による小論文アンケートを実施し、専門性に応じて担当教員による個別指導を行った。その結果、4年生大学総合型選抜・学校推薦型公募で2名合格。	B				
		資格取得に特化した朝課外や個別指導を通し、第1志望進路実現を目指す。		A				
企画庶務課	各部・各課との連絡調整を行い、円滑な校務運営に努める。	企画庶務主催の各行事は、組織的に連絡調整を行い円滑に実施する。	学校要覧に掲載する生徒の出身市、通学状況、通学時間、通学方法については、学年別にみても大きな変化はなかった。	A	A	行事企画は、各課や学科、学年と連絡調整を進めることができた。しかし、業務が重なる時期があるため、先の見直しを持って業務を行い、係の分担を効率的に行うなど計画的に進めたい。	A	行事の取組みも計画通りであると聞いており、適切な企画・運営が行われていると感じる。
		学校要覧、新入生のおしり等、各課や事務室と連携しながら作成する。		B				
		課内の業務内容を整理し、連携強化に努める。		B				
	広報活動の推進に努め、本校教育内容のPRに努める。	PTAと連携し、地域に根差した教育活動を推進する。	PTA役員の年間反省等の記述から、今年度の取組に対する意識と次年度の課題が可視化できた。	A				
本校の日ごろのPTA活動について、筑後地区公立高等学校PTA連合会研修会で発表する。			A					
夢プロジェクト課	「ワンヘルス推進教育」	学校にワンヘルスを浸透・推進し、実践力を高めるための年度計画を立て、具体的取組を実施する。	ワンヘルスに関するアンケートを年度当初に実施し、対策を練り、各取組終了後、12月にアンケートを実施した。それによって、ワンヘルスに対する理解度は大いに高まったと判断できる。	A	A	年度当初にワンヘルスに関するアンケートを取り、実態把握をし、それに応じて、ワンヘルス学習会や、ワンヘルスウィークで関連の読書を実施した。各学科の協力を得て、ワンヘルス実践発表会を実施したことで、生徒達のワンヘルスに対する理解度は大いに高まった。それは、年度後半のアンケートで容易に判断できる。ワンヘルスに関するワンヘルス推進のための教育は十分にできたと考えている。	A	ワンヘルスの理解促進に大いに貢献されている取組である。
		各学年におけるワンヘルス推進教育の目標を設定し、全学年においてHRIに組み入れ、実践する。		A				
		専門学科の授業科目において、授業科目の中にワンヘルスの概念を入れた授業実践をし、中間報告(文化祭)を行う。		A				
	「学びの多様化」の充実と上記を含めた広報活動を通して地域に求められる学校づくり	広報情報課と図書研修課と連携し、ICT機器を用いた学びの形態の多様化を進めていく。	他課のアンケート結果や教員のICT機器の活用状況は上がっているため、教務規定の変更(リモート授業の実践での出席取扱)後、コロナ禍同様以上の対応ができると考えている。	B				
		先進校に視察や情報提供してもらい、教務規定の見直しを促し、不登校対策としての学びの多様化を進めていく。		A				
		各取組を写真・動画でまとめ、HP等で郊外へ発信する。		B				
図書研修課	「確かな学力と自ら学ぶ力の育成」のための授業改善及び職員の自己啓発力を高めるための職員研修会の実施	授業アンケートを実施し、その結果を分析して授業改善に取り組む。	授業アンケートの結果、約9割の生徒が自身の学習に対する取組や授業内容に対し、満足していることがわかった。しかし、年2回実施の教員間の授業参観については、現時点で約7割の実施率である。	A	A	授業アンケートの結果を見ると、生徒の満足度は高いが、改善点すべき点もある。特に、ICTをうまく活用できていないと感じている生徒がいたので、まずは研修等で、職員のICT活用力、指導力の向上を図りたい。また、教員が積極的に授業研究に取り組めるよう、研修課として環境を整えていきたい。	A	生徒の授業アンケート結果から、日々の充実した教育活動が伺える。相互授業参観や、授業改善点を洗い出している点で評価できる。
		積極的な授業参観を促し、互いの授業力を高め合う契機にする。		B				
		本校の教員として求められる資質能力の向上に繋がる校内研修の企画・立案をする。		B				
		生徒・教員のニーズを把握し、蔵書の充実を図る。		A				
		貸出冊数(12月時点)1,499冊 来館者数(12月時点)1,499名(延べ)		A				
		図書館利用者の増加を目指すために、読書週間等のイベント充実を図る。		A				
第1学年	基礎学力の定着	朝学の時間の定着と、各教科担当者との情報共有および連携を図る。	学校生活アンケート、個人面談「学校に自分の居場所があるか」99.3%	A	A	朝学の取り組みについてはどのクラスも集中して取り組むことができています。小論対策の早期実施を学年として検討しており、3学期には導入したい。課題の提出状況が悪くなってきているため、学年全体で改善できるようにする。	A	朝学の指導をはじめ学年で取組んでいる姿が評価できる。
		家庭との連携と、細やかな情報共有を図る。	「友人とうまく付き合うことができた」96.8%	A				
		課題等を丁寧にやり遂げ、期限内に提出できるようにする。		B				
	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	清掃や学校行事等を通し、個人の成長と集団規範の育成を図る。	ワンヘルス実行委員16名立候補、部活動加入率(文化部:34%、運動部:48%、合計82%)	A				
		校則や規範を重んじ、安定した学校生活環境づくりを図る。		B				
		部活動加入率を上げ、学校行事や生徒会活動等を通し帰属意識を高める。		A				

第2学年	基礎学力の定着	教科担任会等により、情報の共有および指導の連携を図る。	・個人面談の聞き取りにて「学校に自分の居場所があるか」97.8% 「友人とうまく付き合うことができた」96.3%	A	A	A	学習に関しては、成績面においてかなりの個人差が出ている。成績不振の生徒に対しては保護者等と連携を図り個別に指導することができた。進路決定に向けて、基礎学力の向上を図るために朝学習の定着させていきたい。	A	個別指導者を中心に手厚い活動であると感ず。
		保護者への連絡や面談を行い、家庭との情報の共有および指導の連携を図る。		A					
		考査前に学年による学習会を行い、個々に応じた指導を充実させる。		B					
	生徒の主体的な取り組みの推進と自律心の育成	各行事において、計画・運営等を生徒中心に活動する場面を設定する。	・文化祭への取り組み状況	A	A	A	行事等において、生徒主体で行動できるように指導ができた。文化祭などの行事においても積極的に取り組む姿が見られた。3年生のあとを継ぎ、次年度、最高学年として後輩の手本となるように指導して行きたい。	A	修学旅行では、非常に充実した研修を行ったと聞いている。日頃の学びと学校行事等の経験をさらに生かしてほしい。
		文化祭や修学旅行の指導を充実し、帰属意識や連帯感を高める。	・生徒会役員選挙、農業クラブ役員選挙への立候補数など	A					
		生徒会活動や農業クラブ活動への積極的参加を促し、リーダーを育成する		A					
第3学年	社会的自立の基盤となる確かな学力の育成	学年と各学科・教科で、情報の共有および指導の連携を図る。	いじめアンケートおよび学校生活アンケートを定期的に実施。いじめアンケートからはいじめに関する回答はなかった。学校生活アンケートの内容を踏まえて、その後の面談を実施した。「学校に自分の居場所があるか」97.5%「友人とうまく付き合うことができた」98.3%	A	A	A	出席状況や成績に関して、気になる生徒の家庭に連絡をしたり面談を実施したりして、概ね連携をとることができた。学習への意欲が低い生徒に対しても、各学科・教科と連携して指導を行うことができた。	A	進路実現に向けて手厚い活動がなされている。
		家庭との情報の共有および指導の連携を図る。		A					
		考査前学習会を行い、個々に応じた指導を充実させる。		B					
	希望進路の100%実現	各学科や進路指導課と連携し、専門分野を中心とした進路選択を促す。	1学期に生徒・保護者を対象に進路希望調査を実施。回答の内容を踏まえて三者面談を行い、共通理解を図ることで進路指導に役立った。	A	A	A	早期に生徒の進路に対する意欲を喚起することができ、進路希望の決定から実現まで、全体的にはスムーズに進めることができた。一方、生徒自身とその進路希望がミスマッチと思われる事例も一部あり、今後、校内推薦規定の検討も必要と思われる。	A	生徒全員の希望する進路が決定しており、適切な指導が計画的に行われている。
		生徒・保護者との共通認識を図り、希望に合う進路を決定させる。		A					
		進路指導課と連携し、進学・就職それぞれへの対策を充実させる。		A					
農務	農業クラブ活動の活性化	地域及び企業との連携を図り、プロジェクト学習等の充実を図る。	九州学校農業クラブ年次大会プロジェクト発表Ⅱ類優秀賞受賞。学校農業クラブ県大会で、プロジェクト発表最優秀、優秀賞2部門、意見発表優秀賞2部門、測量競技最優秀など入賞多数。	A	A	A	農業DX事業をはじめ、地域及び企業との連携を図ることで、生徒への興味・関心を引き出すことができた。また、ICTを活用し生徒自身の課題解決に活かすことができた。専門分野では、プロジェクト学習において、農業クラブ九州大会において、優秀賞を受賞することができた。次年度の課題としては、各学科での入賞を目標とした。	A	農業クラブ九州大会での優秀賞おめでとうございます。
		専門分野における生徒の興味・関心を引き出し、生徒自身の課題解決を図る。		B					
		ITCやオンライン等を活用し、先端農業の学習形態に取り組む。		A					
	情宣活動及びワンヘルス教育の活性化	ホームページに学習活動を掲載し、各学科の取り組みを発信する。	各学科の取り組みについての情宣活動、地域への販売活動及び本校取組等での教育活動の実践。令和7年度福岡県ワンヘルス国際フォーラムにて本校楳研究班が発表。	A	A	A	今年度は、農業関連行事や販売会等多くの行事に参加し、教育効果を発揮することができた。ワンヘルスの取組として、プロジェクト学習を通して、生徒への理解度を向上させることができた。次年度の課題としては、ワンヘルスの取組の拡充と専門職への進路拡大を充実したいと考える。	A	農業科で取組まれているプロジェクト学習や意見発表、各種競技で昨年より素晴らしい結果が残っている。今後も取組んでほしい。
		ワンヘルスの定義を理解させ、学習での取り組みを理解させる。		B					
		地域のイベント等に参加し、各学科の学習成果を伝え広める。		A					
園芸技術科	・基本的な生活習慣の確立	就寝・起床時間の管理や授業及び日常の活動における時間管理の励行。	課題研究発表会や近隣保育園との交流実習などを実施し、生徒が「自分の考えを分かりやすく伝えることができた」ことを自己評価している生徒が多かった。	B	B	B	生徒の個人差で、遅刻欠席などの時間管理ができない生徒がおり、きめ細やかな指導を徹底し、基礎的な生活習慣の確立ができるように次年度も継続して指導していく。	A	実習日誌などの細かな点まできちんと評価されていると聞いている。今後も生徒の意欲を引き出してほしい。
		授業ノート、実験・実習レポートの書き方の指導を行い、表現する力をつける。		B					
		生徒の学習意欲を引き出す教材の作成・工夫、ICT、実験・実習などをとおして、わかりやすい授業内容を展開する。		A					
	・希望進路実現	正しい勤労観、職業観を育成し、希望進路実現する。	農業技術検定3級取得2年生18名取得、情報処理技能検定2級・日本語ワープロ検定に100%合格。初級バイオ技術者検定3年生13名取得など。	A	A	A	今年度は、様々な進路学習につながる体験活動を行うことができ、生徒自身が考えるきっかけができた。また、継続的に指導することで、一人一人の進路実現につなげていく。	A	校内だけでなく、校外にも視察や連携を進めてあり、生徒の進路に活かされていると感ずる。
		進路相談や面接指導などの指導を充実し、進路意識の高揚を図る。		A					
		実習を通してコミュニケーション力を育成し、希望進路実現を目指す。		A					

食品流通科	食品流通科の取り組みや魅力を積極的に発信する。	地域と連携(久米米市・地元企業・各種研究機関した取り組みを目指す。	農福連携によるワンヘルス開発メニューでは、外部関係者に試食会・開発説明会を行い、味・栄養バランス、衛生面において良好な評価を得た。	A	A	A	今年度は農福連携に重点を置き、社会福祉科と連携しながら高齢者施設を訪問し、高齢者向けの介護食の開発に取り組んだ。今後は嚥下食など健康状態に適応した食事の開発を目指す。農業クラブ活動を通して、学習意欲を高めた結果、福岡県学校農業クラブ県年次大会で意見発表、プロジェクト発表等優秀賞を受賞することができた。	A	農業クラブ県大会優秀賞おめでとうございます。
		学科の魅力ある授業・実習(新商品開発・各種販売会・広報活動等)をPRする。		A					
		農業クラブ活動(意見発表・プロジェクト研究・各種競技等)の活性化を目指す。		B					
	実習・授業の更なる充実(ICT等を活用した実践)を目指す。	2年生で情報処理技能検定2級、文書デザイン検定2級100%合格。	A						
専門的な知識と技術の定着を図り、資格取得や検定の合格を目指す。		資格取得(食品製責任者・簿記検定など)の充実を目指す。	3年希望者で情報処理能力検定1級、文書デザイン検定1級、プレゼン作成検定1級合格など。	A	A	A	今年もICTを活用したレポート作成やスライド作成を通してプロジェクト発表等を実施し教育効果を高めることができた。また、例年以上に簿記をはじめ各種資格の合格を達成できた。	A	外部連携による高齢者向け弁当等の開発や校内パン販売や加工品販売など、よい評価を耳にする。今後も継続してほしい。
		生徒の進路保障を充実させる。		A					
		座学・実習を問わず記録時間を設定し、書く習慣を確立し整理力を身に付けさせる。	九州学校農業クラブ年次大会Ⅱ類優秀賞受賞。農業クラブ県大会プロジェクト発表最優秀賞、測量競技最優秀賞。オーセブンCADコンテスト優秀賞受賞。	B					
		進路実現に向けて企業と連携し、早期の進路指導を推進する。		B					
造園デザイン科	学習意欲の向上及び学力の定着を図るとともに、進路実現の推進。	教員の専門研修の機会を設定し、資質と技術の向上に努める。		A	B	A	各関係企業と連携した取り組みを多く実施することができ、生徒の進路実現に繋げることができた。また、教員の資質と技術向上に繋がる管理実習を行うことができた。この取り組みを生徒に還元できるよう取り組みたい。	A	授業ではCADやドローン測量など時代に応じた取組も進めていると聞いている。造園や関連分野への進路を描いてほしい。
		校外実習でボランティア精神の高揚に努め、専門力を向上することができる学習環境を整える。	みずほpaypayドームをはじめ校内外に庭園作成等を5回実施できた。庭園展示アンケートでは、80%以上が「高校生とさえない作品」との評価を得た。	A					
		現場実習及び就職先企業の新規開拓を実施し、進路実現につながる連携強化を図る。		B					
	地域行事等に積極的に参加し、専門力を活かす学習環境を整える。		A						
・基本的な生活習慣と社会性の確立	・国家資格等の取得と希望進路の実現	挨拶、時間厳守、礼儀作法、頭髮・服装等のマナーアップ指導の徹底。	・生徒の授業アンケートの結果を各教科担当者とともに確認し授業改善を図っている。介護職員初任者研修及び介護福祉士資格100%達成。	B	A	A	遅刻、欠席が多く、基本的な生活習慣の定着が図れていない生徒への決め細やかな指導を継続する。生徒の個人差が大きい面でもあるが今後も家庭、学校がともに協力、連携を図りながら生徒の課題に向き合う必要がある。	A	2年間、生徒が少ない状況であったが、今年度は改善されており、取り組まれていることが実を結んでいると感じる。
		豊かな人間性と実践力を育て社会に貢献し奉仕(人の役に立つ)できる人材育成を目指す		A					
		自らの適性や興味を探り主体的に進路を選択できるよう、自己分析の支援と学習分野や職業に関する情報提供の充実を図る。	・中学生体験入学等のアンケートでは概ね良好な結果を得ている。中学生体験入学の参加者が昨年度より約1.5倍に増加。	A					
		健康、衛生環境、人と動物の共生社会づくり(補助犬・セラピー犬)について学び、ワンヘルスの理解を図る。		A					
・食物調理科の取り組みや魅力を積極的に発信する。	・専門的な知識と技術の定着を図り、資格取得や検定合格を目指す。	ホームページやInstagramを活用して情報を発信する。	料理コンクール応募数が増加。たまごニコニコ甲子園にてグランプリ受賞。道の駅くるめ駅弁コンテストで採用。山川地区子ども塾で「食育講座」実施	B	A	A	今年もさまざまなコンクールに応募し、全国大会を始め、多くのコンクールで受賞できた。ホームページの投稿についてはよりリアルタイムでの更新ができるように努力したい。	A	正門横のコンテスト入賞や結果の看板が多く立ててあり、成果が上がっていることがわかる。外部に向けた成果報告は大切である。
		地域と連携し、食物調理科としてのワンヘルス教育の取り組みを発展させる。		A					
		料理コンクールの入賞・受賞を目指して様々なコンクールへ応募する。		A					
		理論と実習・実技での学びが結びつくように指導方法を工夫する。	3年生技術審査全員合格。進路懇談会が生徒一人一人にとって自分の進路を考えるきっかけとなったことが感想、アンケートから読み取れる。	A					
全職員で挨拶や礼儀作法の指導を徹底する。	卒業生との進路懇談会を実施し、自分の進路を考える機会を設ける。			A	A	A	返事、挨拶の指導は全職員での指導ができた。指導方法については今後も工夫改善を重ねていきたい。卒業生との進路懇談会については今年も実施を予定しており、昨年同様学びの多い会となるようにしたい。	A	卒業生をはじめ外部での実習も多いと聞いている。社会人の基礎をしっかり身に付けてほしい。
				A					
				B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> AIやICTを活用した探究的な学びを実践するために教育環境の整備を図ることや、先進的な知識や技術に触れて思考していく機会を増やす。 生徒の希望進路実現に向けた個別指導の充実を目指して、本校のキャリア教育計画の見直しや、新たな学習支援ツールを活用して進路指導の充実を目指す。 入学者定員の確保のため学校の魅力発信や取組に関する広報活動の強化、並びに改善を図る。 創立120周年事業の企画立案を行い、校内組織の整備や外部関係機関と連携しながら周年事業の成功に向けて準備等をすすめる。 今後もワンヘルスに関する学びを推進し、ワンヘルスの視点で再構築したり、互いの学びを共有したりすることで、学びの幅を広げ心身の成長を促す機会とする。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度に迎える創立120周年の取組準備や、生徒によるワンヘルスやプロジェクト発表等に期待している。 	